

消化器検診 Newsletter

[日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会機関紙]

No. 89

発行所：日本消化器がん検診学会
関東甲信越地方会
〒112-0014 東京都文京区関口 1-14-7
和田文栄ビル 2 階
TEL / 03-3267-0678
FAX / 03-3235-7647
E-Mail: kantou@jsgcs.or.jp

検査と私

埼玉医科大学総合診療内科 中島美智子



最近手元に日本消化器がん検診学会胃がん健診精度管理委員会編集の「新・胃X線撮影法ガイドライン 改訂版(2011年)」が届きました。素晴らしいガイドラインであり、委員の皆様方のご尽力には只々頭が下がるばかりです。拝見しているうちに修行時代を思い出しました。今回Newsletterへ執筆させていただく機会を得ましたので、消化管造影検査と超音波検査、付かず離れず検診に関わってきた歩みについて述べさせていただきたいと思います。

消化管検査との関わり

私の郷里は長野県安曇野市です。今年度上半期NHK朝のテレビ小説「おひさま」の舞台となっていて、少し田舎ではありますが、新鮮な空気と瑞々しい野菜や果物、文句無いお米、おいしい水に恵まれた良いところです。しかし冬の寒さは生半可ではありません。大学は都会で暖かいところに行こうという思いが強く、結局埼玉医科大学の一期生として入学致しました。毛呂山の地は残念ながら都会ではありませんでしたが、暖かく、都内に近く便利であり、一期生の特典として自由が利き大変居心地がよかったため、卒後も大学に残って勉強を続けることを選択しました。内科系の大学院を受けようとは決めたもののどの分野にするか思案していた時、研究棟へ向かう廊下で臨床医として尊敬していた第三内科の久保浩一先生とばったり行き会い「あっ、この先生の前で臨床経験を積みた

い」と思った結果、消化管肝胆膵疾患を主要分野とする第三内科を選びました。この時期の大学の方針は、大学院生といえどもまず臨床経験を積ませるというものでしたので、私も病棟患者を受け持つ一方で、上部消化管X線造影の研修を始めました。この研修の指導医が故白壁彦夫教授門下の故狩谷 淳先生でした。まず、前壁薄層法での観察です。これは二重造影では比較的描出困難な前壁の病変を写し出す、特に早期のスキルスを発見するのが目的で、濃度を薄くしたバリウムを少量飲ませて直ちに腹臥位で撮影するというもの。太い襞壁が途切れず胃角を越えて存在していたらスキルスを疑う所見です。後に実際にこの像を認めた時、背筋が寒くなったのを覚えています。

また、立位充盈法では胃角が丸く開いた瞬間を狙ってスイッチを押すこと、二重造影では背臥位、腹臥位、正面、斜位の組み合わせで全ての部分がきちんと二重造影で描出されているようにチェックしながら写すことを徹底させられました。バリウムが停滞してしまうと診断が困難になってしまうため、鎮痙剤は使わず、十二指腸に流れてしまっても気にせず撮像のポイントをはずさないように撮れば、後でちゃんと診断できるからということでした。当時は胃集検の受診率も低く、大学での消化管造影は検診も兼ねたものであったため、多くの例を経験させていただきました。間接造影のダブルチェックも手伝いましたが、こちらは短時間で小さなフィルムの像を多数見なければならず、緊張を維持するのが大変でした。

下部消化管造影検査、内視鏡検査とレパトリーを広げ、何とか一人前になったと思った頃結婚することになり、出産をにらんで被爆の心配のない超音波検査へと移りました。

超音波検査との関わり

博士論文を指導して頂いた伊藤 進教授が千葉大学の出身であったため、超音波検査は早くから取り組んでいました。また、第一外科には和賀井敏夫先生の直弟子である、小林正幸先生もいらっしゃり、超音波を研修する上では恵まれた環境であったと思います。生理機能検査室には博物館ものの、水槽式の装置やコンパウンドスキャンも備えられていました。日本超音波医学会にも参加するようになった頃、様々な発表に対して容赦なく発せられる竹原靖明先生の鋭い質問をお聞きして、「すごい方がいるのだな」と思ったものです。最近の学会は全般的に柔らかな質問が多くなりましたが、竹原先生の相も変らぬ舌鋒鋭い質問を拝聴するたびに何故かいつもうれしくなってしまう。どうかいつまでもお元気で若輩者を厳しく導いていただきたいと思います。

幸いなことに様々なご縁があり、日本大学の小野良樹先生、獨協医科大学の高田悦雄先生とも面識を得ることができ、世間も大分広がっていきました。

最新の技術を備えた装置が多数開発されるようになったことをきっかけに効率よく高性能の装置を利用できるようにとの考えから、大学病院に中央超音波室が設置され、私は数人の仲間とともに中央超音波室運営委員をかねる専任医師として移動し、代表を務めることになりました。超音波室設置にあたり、装置から直接画像ファイリング装置に静止画像を転送する、動画も保存する（当時は保存場所の関係で8ミリテープとVHSの両方を使用）、モニターで走査画面をリアルタイムに別室で観察し、必要に応じて検者に指示を与える、必ずダブルチェックを行うなど精度を高めるために様々な工夫を行いました。対象臓器は心臓以外全てで、小児科領域も含みました。また、同時期にできたドック部門の超音波検診もあわせて行うことになり、スクリーニングから精査まで一手に引き受けて、忙しい毎日でした。

今までは内科医として看護師とのチームで仕事に向かっていましたが、これに加え臨床検査技師、放射線技師の皆さんとも一緒に仕事をしなくてはならず、超音波の特性はわからない、CT、MRI等の画像の読み方は知らない、解剖には疎い、病理組織はみたことがないなど。それぞれの分野ではエキスパートでも、他の分野では素人に等しい人々がまとまって仕事をするには大変なエネルギーが必要でした。超音波室内での勉強会の他、画像診断の勉強会、様々な診療科と放射線科、病理を含め

目 次

「検査と私」中島 美智子	1
リレー随筆「住みたくはないけど、気になる街」江口 暁子	4
「究極であるもの」篠原 勇	5
施設紹介	6
第 71 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会開催のご案内 第 3 報	7
超音波スクリーニング研修 講演会 2011 有明	8
ザ・ベスト・イメージング・コンテスト応募要項	9
第 36 回日本消化器がん検診学会部会研究会総会のご案内	10
第 49 回日本消化器がん検診学会大会のご案内 (JDDW2011)	11
第 51 回日本消化器がん検診学会総会のご案内	11
編集後記	12

た症例検討会も積極的に参加していきました。この頃高田悦雄先生からお誘いがあり、日本消化器がん検診学会（当時は日本消化器集団検診学会）に入会致しました。

消化器がん検診学会との関わり

主に関東甲信越地方会超音波部会において、セミナーの講師、司会、コメンテーターなどを勤めさせていただきました。その中で教育ということにつき少しずつ整理できるようになったと思います。

今年は超音波部会の研修担当委員長という役が回ってまいりました。竹原先生がおっしゃる通り超音波検査スクリーナーの養成、担当者教育は永劫続けなければならないことだと思っております。それを続けていくには医師側も恥じることのない知識や技術を身につけねばならないため、研修医からの教育にも力をいれなければなりません。他大学で頑張っている先生方に負けまいと日々自身を叱咤しているところです。

また、Newsletter No87の巻頭で依田芳起先生がお書きになっていらっしゃる通り、腹部超音波がん検診基準のワーキンググループの一員として超音波所見判定基準案の作成を行ってきました。この判定基準案は第50回日本消化器がん検診学会総会のワークショップにおいて晴れて公表され、腹部超音波がん検診基準として今学会誌の掲載を待っています。今後はこの判定基準が広く行き渡り利用されていけばと願っています。そして、将来、「新・胃X線撮影法ガイドライン」のような刊行物を超音波部門でも作成できればと夢が膨らんでいます。

さて、私は来年の第72回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会の会長を拝命致しました。新参者であり、未熟者である私です。精一杯努力致す所存ですが、至らぬ点が多々あるのではないかと心配しております。どうか、ご協力お願い申し上げます。

最後に震災でなくなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますと共に、被災された皆様のお見舞いと被災地の復旧をお祈り致します。

消化管の診断に

処方せん医薬品

X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

◇パウダー製剤

硫酸バリウム酸 99.1%「共成」	バリトップHD
ネオバルギンEHD	バリブライトP
ネオバルギンUHD	バリブライトCL
ネオバルギンHD	バリコンクMX
	バリブライトLV

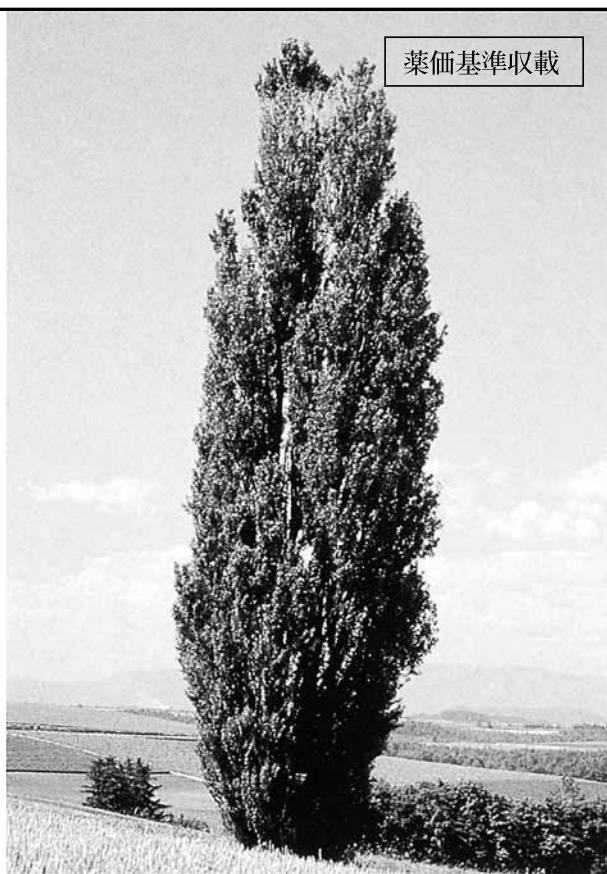
◇ゾル製剤

バムスターS200	バリトップゾル150
バリトップ120	バリブライトゾル180

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

薬価基準収載



発売元



株式会社 カイゲン

大阪市中央区道修町2-5-14〔資料請求先 新薬本部〕
<http://www.kaigen.co.jp>

リレー随筆

「住みたいはないけど、気になる街」

早期胃癌検診協会
中央診療所
江口 暁子



「あー。この街に住んでみたいなー。」

一度は、考えた事ありませんか？実際住めるかどうかは別として、憧れの街、気になる街って誰しもありますか？

ちなみに毎年恒例の東京ウォーカーによる東京の住みたい街ランキング2011年の上位は以下の通りでした。

【住みたい街】

1位:吉祥寺 2位:下北沢 3位:恵比寿
4位:自由が丘 5位:新宿

【住んでよかった街】

1位:中野 2位:高円寺 3位:吉祥寺
4位:池袋 5位:練馬

わ。私、高円寺に住んでいるよ！確かに住みやすいです!!

という、個人情報ダダ漏れな余談はおいといて、私には今、住みたいかと問われれば、「いえ。無理です。」と言わざるを得ないが、妙に気になる街があるのです。

「東京都北区赤羽」です。

なぜに赤羽？と思う方もいらっしゃるでしょう。そして、赤羽に住んでいます何か？と思う方もいらっしゃると思います。

赤羽に住んでいらっしゃる方を、赤羽という街を軽んじているわけではありません。むしろ、すごい街だ！と、私は赤羽という街をリスペクトしているのです。そのところをふまえた上でこの先読み進んでいただけたら幸いです。

私が、赤羽という街に興味を持ち始めたのは、恥ずかしながらごく最近です。きっかけは、2010年11月22日に阿佐ヶ谷のトークライブハウスで行われた大根仁さんのイベントでした。

大根さんは最近では「モテキ」という映画の監督をされた才能豊かな方なのですが、この大根さんが不定期に行っている「テレビマンズ」というイベントに、とある漫画家が出演しました。(固有名詞が分からない方はググってください)

「ほんとひどい奴なんですよ(褒め言葉)」という大根さんの紹介で壇上に登場したのは、漫画家の清野とおる氏でした。この清野氏が現在連載(配信?)している漫画こそ、「東京都北区赤羽」なのです。すでに多くのメディアで取り上げられているので、今更感も否めませんが、それでも言わせてください。

この漫画、すごく酷くて面白い。

どんな内容かと簡潔に言うならば、ガチで赤羽に生息する素敵すぎる奇人・変人の方々と清野さんとの心温まる交流がおもしろおかしく描かれている漫画です。独特の絵と独特の世界観に最初は戸惑ったものの、気が付けば赤羽の愛すべき方々にすっかり魅了されてしまいました。

この漫画の第一話はこのような文で締められています。

「この漫画を読んだアナタは赤羽に行かずにはいられない衝動にかられるであろう」

まさにそれ。そんな感じ!

しかしながら、想像を絶する個性的な方々が次から次へと惜しげもなく出てくるので、赤羽という街はすごく気になるし、赤羽という街で飲みたい!という衝動にかられるものの、なかなか実際行くことができずにいます。ましてや住みたいなんて、私如きには恐れ多いです。

いつの日か、住みたい街ランキングに赤羽がランクインすればいいな。と、無責任に陰ながら期待しております。



「究極であるもの」

東京都多摩がん検診センター
篠原 勇



10代から20代の頃、私はスキーに凝りに凝っていた。頭の中はスキーでいっぱい。

腹筋、腕立て、うさぎ跳び....(懐かしいですね、巨人の星を思い出します。スポーツ少年の定番メニューでした。そういえば、クラブ活動の時は飲水禁でした。あれは、何だったんでしょう?) 歯を磨く時は、かかと上げとつま先上げを1セット。電車はバランス訓練の道具と心得ていた。そして、待ちに待った週末、いざゲレンデへ!深雪を滑るときの快感は得も言われぬ。しかし、上手くならない。脳震盪も起こしたしムチウチでしばらく首が回らなくなったこともあった。ジャンプの着地で尻をしたたかに打ち尾骨が半年ぐらい痛かったこともある。あれは、きっと骨折していたに違いない。受けたことはないがバッチテストでいえば1.5級といったところか。

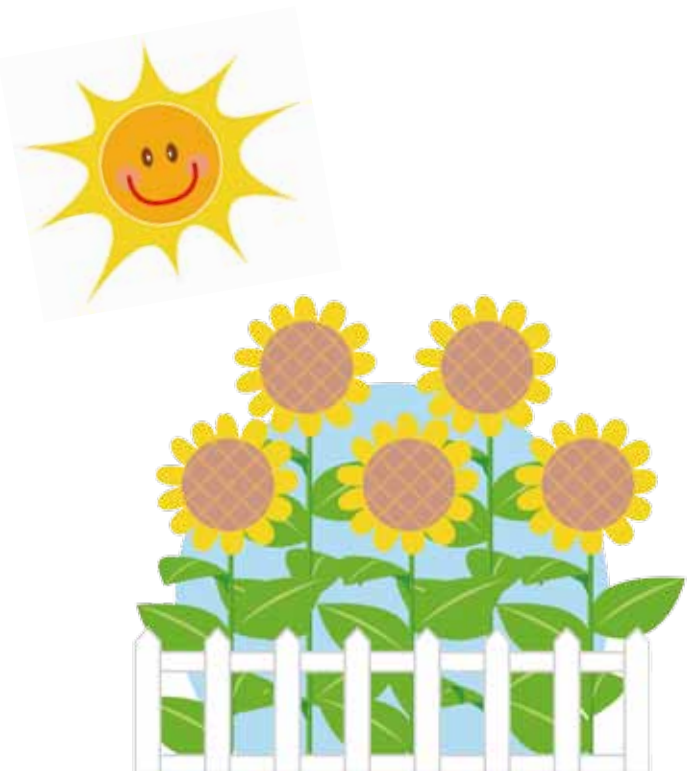
30代から40代の頃、私はゴルフに凝りに凝っていた。飛距離は出る。フォームも美しい(と人は言う...)。頭の中は、ゴルフでいっぱい。ラウンド前夜は、遠足前の子供よろしく目がさえてまったく眠れない。道を歩く時、あの角まで何メートルとイメージしたら、1,2,3,4と歩測する。おかげでつい歩数を数える癖がつき、駅から家まで2580歩、バス停までは520歩と変なことを覚えている。しかし、上手くならない。スコアが伴わない。そう、B級から抜け出せないのである。

そして今、凝りに凝っているのが釣りである。例によって頭の中は釣りでいっぱい。もちろん前夜は一睡もできない。大物用にと、丈夫な仕掛けを作るのだが、強度テストでつい引っ張りすぎて糸が切れる。また作る、引っ張る、切れる。また作る....しまいには糸がなくなりそうになるのである。さて、そんな私であるが釣りもB級かと思いきや、どっこい、これがすごい。釣れるは釣れるは、ほかの人がだめな時も私だけひよいひよい釣れるのである。いつしか、天才・名人と言われるようになっていた。と、これは釣りを始めて一年目のことで

あった。あれから10年。「神童長じて神童のためし無し」と言いますが、思えばあれは典型的なビギナーズラックというやつでした。ヒラメが3匹カサゴ1匹真鯛1匹と、今年の釣果を数えられるのが悲しい。釣り宿のお上さんが釣れなかった客に配る鰯の干物に「毎度ありがとうございます。」と礼を言って帰路につくのである。

以上、私の趣味の遍歴である。何かに夢中になってしまうたちの様でその度ごとに、これぞ究極!と思ってきた。同時に、住みたい場所もころころと変わって、北海道、那須、今は、南房総あたりが安住の地と確信する。

この情熱を仕事にぶつけていたら、きっと今頃はビッグネームになっていたに違いない。ところで、我が家に目を向けてみたとき、ピカチュウ/カイリゅう/ヤドラン/ピジョン/コダック/コラッタ/ズバット/ギャロップ.....(出典:「ポケモンいえるかな?」ご記憶の諸兄もいらっしゃるでしょう。) そんなものを覚える情熱があったら九九を覚えろー!と偉そうに言っていたことを思い出す。いつしか、これが言える子達が新人で入ってくる時代になっていた。九九を覚えろー!いや、違う。右から3回、回ってくださいでした。



施設紹介

「医療法人社団 相和会」

<理念>

「より良い保健・医療・福祉の実践」

<相和会沿革>

昭和 29 年 8 月 淵野辺病院開設
 昭和 31 年 8 月 法人格（医療法人社団）を取得
 昭和 47 年 5 月 横浜総合健診センター設立
 昭和 58 年 4 月 労働衛生部門として産業健診部設立（出張健診）
 昭和 61 年 4 月 淵野辺病院附属 相模原総合健診センター設立
 平成 5 年 9 月 淵野辺病院を全面建替、名称を「淵野辺総合病院」と改称
 平成 8 年 6 月 訪問看護ステーション設立
 平成 11 年 11 月 介護老人保健施設「青葉の郷」設立
 平成 20 年 2 月 みなとみらいメディカルスクエア開設

<組織>

医療関連：淵野辺総合病院 新横浜ソーワクリニック

みなとみらいメディカルスクエア

保健関連：相模原総合健診センター 横浜総合健診センター

みなとみらいメディカルスクエア 産業健診センター

福祉関連：介護老人介護施設 青葉の郷 訪問看護ステーション

<施設紹介>

相和会では 30 年以上前から予防医療に着目し、本格的な健診事業を展開、疾病の早期発見、早期治療に貢献してきました。横浜総合健診センターは昭和 47 年に開設し、他に先駆けて自動化総合健診 1 日コースを主体とした人間ドック等の健診事業を開始。昭和 58 年には産業健診部を開設し、出張健診にも取り組みました。横浜総合健診センターは平成 16 年神奈川県では最初に人間ドック・健診施設機能評価の認定を受けました。また相模原総合健診センター、みなとみらいメディカルスクエアも人間ドック健診施設機能評価認定施設となり、全施設快適で質の高い健診と医療のトータルサービスを提供しています。相和会では保健関連、医療関連福祉関連の 3 部門が連携し疾病予防から治療、福祉までのトータルケアを目指しています。地域に密着し、住民の方々の健康を支えるために各施設が連携することはもちろん、地方自治体や地域の医療機関、福祉機関とも連携して、最良かつ良質な医療と福祉を目指しています。

<平成 22 年度グループ実績>

□施設健診

人間ドック受診人数	43,648 人
生活習慣病健診受診人数	20,806 人
一般健診受診人数	6,210 人

□出張健診

定期健診受診人数	145,248 人
生活習慣病健診受診人数	17,461 人
特定健診受診人数	36,083 人
その他受診人数	96,020 人



淵野辺病院附属
相模原総合健診センター



横浜総合健診センター



みなとみらいメディカルスクエア



産業健診センター

第 71 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会 (第 12 回放射線フォーラム、第 13 回超音波学術集会、第 40 回保健衛生部会)

日時:平成23年9月10日(土) 9:00-17:05

会場:JA長野県ビル(長野駅より徒歩10分)

【テーマ】—消化器がん検診を見直す—

- 基調講演 大腸検診の過去・現在・未来(仮題)
 演者:いわき市立総合磐城共立病院 樋渡 信夫
 司会:長野県立病院機構 須坂病院 赤松 泰次
 会長講演 ピロリ菌感染症スクリーニング検査の学校検診への導入

—胃癌撲滅を目指して—

- 演者:長野県立病院機構 須坂病院 赤松 泰次
 司会:信州大学医学部消化器内科 田中 榮司
 シンポジウム1 胃検診の近未来像を考える
 司会:山梨大学医学部第一内科 佐藤 公
 シンポジスト:長浜 隆司、松澤 賢治、野口 俊昭、成澤 林太郎
 シンポジウム2 大腸癌検診の現状と問題点
 司会:杉山外科医院 杉山 敦
 シンポジスト:中村 直(医師)、高瀬 美子(保健師)、
 玉木 孝男(検診協会)、小林 良清(行政)
 一般演題1 司会 三村 尚
 一般演題2 司会 中村 潔
 ランチョンセミナー
 演者:国立がん研究センター中央病院放射線診断科 三宅 基隆



事務局:〒381-2298

長野市稲里町田牧206-1長野県健康づくり事業団

玉木 孝男

TEL:026-286-6407 FAX:026-286-6412

E-mail: takao.tamaki@kenkou-nagano.or.jp

会長: 長野県立病院機構須坂病院 内視鏡センター

赤松 泰次

TEL : 026-245-1650 FAX : 026-248-3240

E-mail: akamatsut@suzakahp.jp

超音波スクリーニング研修講演会 2011 有明

日 時：平成 23 年 12 月 17 日（土）午前 9 時 25 分～午後 5 時 00 分 ＊開場・受付開始：8 時 30 分から

会 場：TOC 有明 4 階 コンベンションホール（EAST ホール）東京都江東区有明 3-5-7

参加費：4,000 円（資料代含む） 事前登録不要

主 催：日本消化器がん検診学会／日本総合健診医学会

運 営：特定非営利活動法人 超音波スクリーニングネットワーク

理事長：竹原 靖明（横浜総合健診センター）

問合せ：関東中央病院 画像診断センター（担当：山田）

E-mail kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com



＊埼京線・りんかい線『国際展示場』駅より徒歩 3 分

＊ゆりかもめ『国際展示場正面』『有明』駅より徒歩 4 分

プログラム テーマ：『US スクリーニングのポイント』

09:25 開会の辞 竹原 靖明

09:30～10:20 『胆道』

講師：岡庭 信司（飯田市立病院） 司会：若杉 聡（亀田総合病院）

10:30～11:20 『腎・膀胱』

講師：桑島 章（PL東京健康管理センター） 司会：関口 隆三（栃木県立がんセンター）

11:30～12:20 『乳腺』

講師：橋本 秀行（ちば県民保健予防財団） 司会：高田 悦雄（獨協医科大学病院）

12:45～13:35 ランチョンセミナー『消化管』

講師：松原 馨（東京慈恵会医科大学附属第三病院） 司会：小島 正久（関東中央病院）

14:00～14:50 『超音波スクリーナーに求めるもの』

講師：真口 宏介（手稲溪仁会病院） 司会：竹原 靖明（横浜総合健診センター）

15:00～15:50 『肝臓』

講師：小川 眞広（駿河台日本大学病院） 司会：小野 良樹（東京都予防医学協会）

16:00～16:50 『脾臓』

講師：森 秀明（杏林大学医学部付属病院） 司会：依田 芳起（山梨県厚生連健康管理センター）

16:50 閉会の辞 高田 悦雄

＊超音波検査士更新 5 点が付与されます。＊会場内での録画・録音は禁止致します。

＊ランチョンセミナーで軽食（700 食限定）の用意をしています。（受付時整理券をお渡しします。）

＊書籍の展示販売を行います。

ザ・ベスト・イメージング・コンテスト作品募集

第71回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会（第13回超音波部会学術集会）において「ザ・ベスト・イメージング・コンテスト」を開催いたします。

記録された超音波写真には検査担当者の思いが込められています。日常業務で撮影された自慢のベストショットを応募してください。応募していただいた超音波写真を、応募者・所属施設を伏せて会場においてスライドショーで閲覧し、会場参加者の投票でベストイメージングを選出します。優秀賞には粗品を進呈いたします。

応募資格は医師・技師を問いません。また応募者のプレゼンテーションはありませんので、学術集会に参加できない方でも応募して頂いて結構です。

特に、出張検診で活躍されている方々の汎用機で撮影された症例のご応募お待ちしております。

第71回関東甲信越地方会学術集会（第13回超音波部会学術集会）

会期：平成23年9月10日（土）

会場：JR長野県ビル（長野市）

超音波部会当番世話人：岡庭 信司（飯田市立病院）

応募要項

【超音波画像】

Bモード（カラードプラ・パワードプラ可）1枚（ただし2分割使用可）

超音波画像に文字、記号等はいれないで下さい。

【領域】

上腹部（肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓、消化管、腹部大動脈、その他）

【応募方法】

E-mail で件名を『ベストイメージング（応募者名）』とし、氏名・連絡先住所を明記の上、添付ファイル（power point）で応募して下さい。

《スライド1枚目》

氏名、所属施設名、超音波機種名、周波数、患者（検診者）の年代・性別、診断名、コメント（術者の一言）

《スライド2枚目》

超音波画像

【応募先】

新横浜ソーワクリニック 担当：中村 稔 Mail：kensa.yokohama@sowa.or.jp

【締め切り】

平成 23 年 8 月 31 日（必着）

***応募は一人1点のみとさせていただきます。**

第36回日本消化器がん検診学会部会研究会総会のご案内

第 49 回日本消化器がん検診学会大会では、下記の通り部会研究会総会を名古屋で開催いたします。胃がん検診専門技師の認定および更新に必須な参加対象学会となっております。午前の部会研究会総会で資格更新5単位、午後の部会研修会に参加されると「研修修了書」が発行され4単位が加算され、計9単位が取得できます。皆さま奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

会 期：2011 年 10 月 29 日（土） 9:00 ～ 17:00

会 場：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

名古屋市中村区名駅4丁目4-38

世 話 人：乾 和郎（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院）

担当委員：川地 俊明（大垣市民病院）

参加費：当日登録 4,000 円（抄録含む） 事前登録 3,500 円（抄録+ランチョン予約券）[締切：10 月 7 日（金）]

*事前登録は第 36 回部会研究会総会ホームページからお願いします。

URL: <https://sites.google.com/site/36bukai/>

プログラム

《午前の部 部会研究会総会》

9:00 開会の辞

第 49 回日本消化器がん検診学会大会会長

第 36 回部会研究会総会世話人 乾 和郎

9:10 部会委員会報告

部会委員会担当理事 土亀 直俊

9:20 特別講演 1 「胃がんリスク検診（ABCD 検診）について」

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院内科 芳野 純治

司会 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院内科 乾 和郎

10:20 シンポジウム「がん検診におけるコ・メディカルのチーム医療への参画とは」

司会 京都予防医学センター

藤澤 靖

練馬区医師会医療健診センター 埋橋 喜次

S-1 受診者に見える診療放射線技師とは

神奈川県予防医学協会

見本 真一

S-2 放射線技師によるアウトカム評価の実践

鹿児島共済会南風病院

淵脇 崇史

S-3 検診チームの一員として

日本鋼管福山病院

石川 祐三

S-4 検診医療安全の確保：リスク回避と受診者への説明

刈谷豊田総合病院

河野 泰久

S-5 受診者への説明：被曝低減と被曝リスク説明

北海道労働保健管理協会

目黒 靖浩

12:00 ランチョンセミナー1

「平成 23 年度胃がん X 線検診部門 B 検定試験の総評と今後の方針」

東京都がん検診センター

細井 董三

司会 刈谷豊田総合病院

玉木 繁

12:30 ランチョンセミナー2

「診療放射線技師に望む胃がん検診の読影補助」

東京都がん検診センター 入口 陽介

司会 愛知健康づくり振興事業団総合健診センター 加納 健次

《午後の部 第7回部会研修会》

13:10 一般演題

司会 北九州市小倉医師会健診センター 佐藤 明美

E-1 : タイ王国における日本人健康診断の現状～第一報・アンケート調査～

タイ王国チョンブリ県シラチャ在中 高橋 英美

E-2 : 発見胃癌における上部消化管撮影経験年数別の技師読影力の比較・検討

聖隷予防検診センター 名倉 義和

E-3 : 技師所見チェック手順の検証を目的としたフィルムリーディングの集計結果報告

神奈川県予防医学協会 福山 智之

E-4 : 当施設における胃がんリスク検診受診者のX線画像の視覚的評価について

岡崎市医師会 公衆衛生センター 黒木 誠司

E-5 : Cアーム型 FPD 搭載透視装置を使用した牛角胃における示現範囲の向上

九州厚生年金病院 井上 友紀

14:00 パネルディスカッション

「The Congress of Digestive Radiological Technology を求めて」

司会 三重県立志摩病院 吉村 平

大垣市民病院 川地 俊明

P-1 : 消化管 X 線検査の将来予想：期待も込めて

下関厚生病院 村上 誠一

P-2 : 放射線技師の現状

小平記念東京日立病院 出島 毅

P-3 : 患者中心の医療の確立、医療の質の向上

埼玉県立がんセンター 腰塚 慎二

P-4 : 胃がん検診の精度管理に求める将来

東京都予防医学協会 佐藤 清二

P-5 : 学会認定技師活性化のためのマニフェスト

早期胃癌検診協会 木村 俊雄

15:20 特別講演 2 「東日本大震災を経験して」

宮城県対がん協会がん検診センター 渋谷 大助

司会 獨協医科大学 石川 勉

16:00 症例検討

司会 愛知県がんセンター中央病院 丹羽 康正

四日市健診クリニック 西川 孝

症例提示および症例解説

豊橋市民病院 山口 稔

浜松南病院 佐藤 慎佑

17:00 閉会の辞

第 36 回部会研究会総会世話人 乾 和郎

第 49 回日本消化器がん検診学会大会のご案内 (JDDW2011)

会 長：乾 和郎（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院内科）

会 期：2011 年 10 月 20 日（木）～ 23 日（日）

会 場：福岡国際センター・福岡サンパレス・福岡国際会議場・マリンメッセ福岡

参加費：15,000 円

*医師が対象の学会です。

第 51 回日本消化器がん検診学会総会のご案内

会 長：土亀 直俊（熊本県総合保健センター）

会 期：2012 年 6 月 1 日（金）・2 日（土）

会 場：熊本市民会館、国際交流会館

*第 37 回部会研究会総会は、6/2（土）開催を予定しております。

編集後記

本年度より編集委員の任に着かせて頂くことになりました、東京都がん検診センター消化器科の小田です。着任早々、本号編集後記の執筆を担当させて頂いております。何を書けばいいのか困っておりますが、何より今年3月に起きました東日本大震災は、全国的に影響を及ぼしました。関東甲信越地区におきましても、その被害は甚大でありました。この震災の影響でお亡くなりになられた方々、ご遺族および関係者の方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を願っております。また、各学会も中止、延期が相次ぐ中、第50回消化器集団検診学会総会は5月20日から22日の3日間、無事東京において開催されました。会長の森山先生初め、関係者各位のご尽力の賜物であります。

本号では、巻頭言としまして埼玉医科大学総合診療内科の中島美智子先生をお願いいたしました。また超音波部会、放射線部会から

のリレー随筆を早期胃癌検診協会中央診療所の江口暁子先生と東京都がん検診センターの篠原勇先生をお願いいたしました。他にも第71回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会やJDDW2011のご案内、第51回日本消化器がん検診学会総会のご案内、各部会からのご報告など、従来と同様にニュースレターを発行する運びとなりました。今後、会員の皆様の興味を惹くよう、さらに内容を充実したニュースレターに出来るよう努力したいと思っております。

執筆時、梅雨の影響で九州では水害まで発生しております。梅雨があければ本格的に夏を迎え、蒸暑い日々が始まると思いますが、くれぐれも皆様方も健康に気を付けてお過ごし頂けるよう願っております。

最後になりますが、関東甲信越支部の発展に少しでも貢献出来ますよう尽力致したいと思っておりますので、会員の皆様、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

編集委員会

編集委員長 長浜 隆司

編集委員 岡田 義和 神宮字広明 山本 美穂
小田 丈二 山口 和也

(非売品)

食道から大腸まで

適確診断のために……

薬価基準収載

処方せん医薬品 注意-医師等の処方せんにより使用すること

【硫酸バリウム製剤】

■ 上部消化管X線造影剤

バリテスター[®] A240散

バリトゲン[®] SHD

■ 消化管X線造影剤

バリトゲン[®] HD

バリトゲン[®] ザル145

バリトゲン[®]

バリトゲン[®] ザル

バリトゲン[®] デラックス ウムブラMD

■ 注腸用X線造影剤

エネマスター[®] 注腸散

■ X線CT用経口消化管造影剤

バリトゲン[®] CT

【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】

■ X線診断二重造影用発泡剤

バリエース[®] 発泡顆粒

■ 胃内に泡性粘液除去剤

バリトゲン[®] 消泡内用液 2%

(ジメチコン内用液)

■ 緩下剤

ファースル[®] 錠 2.5mg

(ピコスルファートナトリウム錠)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

FSK 伏見製薬株式会社 ・資料請求先 / 学術室

〒763-8605 香川県丸亀市中津町1676 TEL 0877-22-7284 FAX 0877-22-6284

仙台営業所 / TEL 022-295-5667 東京営業所 / TEL 03-5328-7801 名古屋営業所 / TEL 052-732-8555
大阪営業所 / TEL 06-6160-2431 中四国営業所 / TEL 0877-22-7284 福岡営業所 / TEL 092-413-4107

やさしさと温もりをもって届けたい。

